

議長年頭あいさつ

豊かなまちづくりを目指して

氷川町議会議長 永田義昭



新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにはご家族おそろいで、健やかに新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

日頃より町議会に対しましてご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は秋がなく夏からそのまま冬になった感じで温暖化の影響か、気候が暴走気味で、世界中で大型ハリケーン、台風、地震、津波と自然の恐怖を感じた年でした。

国内では全国のホテル、百貨店で食材の虚偽表示が相次ぎ、食に対する不安が広がりました。今こそ安心、安全な地産地消の食品を見直す絶好のチャンスと捉えることができると思います。

経済面ではアベノミクス効果という活字が躍っていますが、庶民には実感として湧いておりません。我が国の社会経済が低滞する中、本町におきましても課題が山積しております。

急速に進行する少子高齢化に対応していくために、未来を担う子どもたちの成長を長く強く支え

る支援体制の強化や、障害者・高齢者が孤立せず安心して暮らせる地域をつくり、共に活性化を図れる福祉環境の整備を目指します。

また、農業を豊かにするため地域全体で団結し、発展させる環境づくり、地域の商工業と町民の生活が密につながり、共に活力を生める仕組みづくりなど、住民の目線に合わせた創意工夫が必要であると思います。

執行部、議会が民意を大切にしながら地域社会における課題や変革を的確にとらえ、対応、実現に努力していく所存です。

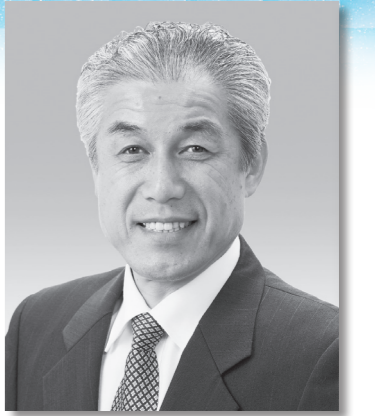
今年も町民の皆さまと共に、より豊かな住みよいまちづくりを目指して、ご期待に応えるよう議員一丸となって、行政の発展と住民の幸せを第一義に考えて誠心誠意努力してまいりますので、今後とも氷川町の飛躍と発展のために、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が皆さまにとりまして、健康で明るく幸せな年でありますようご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

町長年頭あいさつ

初心を忘れず『ふるさとの未来を拓く』

氷川町長 藤本一臣



あけましておめでとうございます。皆さまには、ご家族おそろいで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より町政運営に対しましては、温かいご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、山口・島根地方や伊豆大島の豪雨をはじめ、全国的な猛暑、関東地方を襲った竜巻など未曾有の自然災害が発生し、多くの尊い命と財産が奪われる悲しい出来事があった反面、伊勢神宮の式年遷宮、出雲大社の60年ぶりの遷宮などの歴史的行事をはじめ、富士山の世界文化遺産登録や2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定などの、希望の持てるうれしい出来事も多数ありました。

そのような中で本町は、大きな災害などもなく比較的穏やかな年であるとともに、皇室行事である新嘗祭に奉獻する献穀事業に熊本県代表として取り組み、無事その大役を果たしたことは、氷川

町にとりまして大変名誉なことであり、より良い年であったと感じています。

さて、昨今の社会経済情勢は、昨年7月の参議院議員選挙において政権与党が圧勝し、衆参両院のねじれ状態が解消され、アベノミクスと称される積極的な経済政策に拍車がかかるとともに、さまざまに分野での新たな政策が矢継ぎ早に打ち出され、従来の路線から大きく舵が切られようとしており、まさに行政運営の岐路に立たされています。

私たちはこの現実を直視し、時代の流れを的確に捉えて、その流れを見誤ることなく、堅実な行政運営が求められています。

氷川町が誕生して9年目を迎えますが、解決すべき課題が山積しておりますので、それらの課題解決に向けて、地方自治の原理原則を重んじ、町民の皆さまとの融和と連携による協働型社会の構築を図り、先人から受け継いだ産業・伝統文化・風土を守り育むとともに

に、新たな視点と発想による『ふるさとの未来を拓く』町政運営を粛々と時には積極果敢に展開してまいりたいと考えております。

なお、私も引き続き町政運営の先導役を担わせていただくこととなり、その責任の重さを実感しております。

今後とも町民の皆さまのご期待に沿うよう初心に立ち返り、強い信念と情熱を持って、職員一丸となつて知恵を絞り、汗をかき『安心して暮らせ幸せを実感できる氷川町』の実現に向け、全身全霊を傾注して、その責務を果たしてまいります。

これからも町議会をはじめ町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、「駆け馬に鞭」のことわざのように、新しい年が皆さまにとりましても氷川町にとりましても、更に飛躍する最良の年でありますよう、心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

